

『キャプテン翼』と日本サッカーの隆盛

The relationship between “Captain TSUBASA” and the prosperity of Japanese football

1K05A047

指導教員 主査 リー・トンプソン先生

小川 裕史

副査 石井昌幸先生

【序章】

今やサッカーは、日本において、野球に勝るとも劣らない人気スポーツである。しかし、日本におけるサッカー人気の歴史は浅い。1998年フランスワールドカップに初出場するまで、一度もワールドカップ予選を通過することが出来ず、日本は「サッカー後進国」と謳われていた。そんな日本サッカーの隆盛に貢献したと言われているのが、高橋陽一の『キャプテン翼』である。『キャプテン翼』がきっかけでサッカーを始めた、『キャプテン翼』の影響を受けたという人が数多く現れたのだ。『キャプテン翼』世代ではない自分自身もまた、その影響を受けた一人である。『キャプテン翼』は、最も現実世界のスポーツに影響を与えたスポーツマンガの一つであると言えよう。そこで、『キャプテン翼』は、なぜ人々に受け入れられたのか、どのような影響をもたらしたのかについて分析する。そして、マンガの中のサッカーと現実世界のサッカーのシナジー効果について考察する。なお、本論文は調査研究を主軸とし、主な研究対象を、最も日本サッカーの隆盛に貢献したと思われる、『キャプテン翼』(1981年～1988年)とする。

【第1章】

第1章では、『キャプテン翼』にまつわる歴史的背景についてまとめた。当時、日本サッカーが低迷していたこと、世界では“黄金のカルテット”を擁するブラジルが史上最強と呼ばれていたこと、マンガ界では「小さな物語」の差異化がスポーツの存在意義を問う結果を招き改変期を迎えていたこと、そして学校教育において「スポーツの教育」

(スポーツをすること自体に意義があるという立場)が浸透しつつあったことを明らかにした。

【第2章】

第2章では、マンガの影響力についてまとめた。マンガが現実世界の競技人口を増加させること、企業にとってビジネスチャンスになり得ること、読者は感情移入し願望を充足していること、時代感覚を先取りできることについて論じた。ドラマ化や映画化などのメディアミックスによる影響は否めないが、マンガはマイナーをメジャーに押し上げる影響力を持っている。今やマンガは、日本の文化シーンの一翼を担う存在であることは間違いない。

【第3章】

第3章では、『キャプテン翼』の内容分析を行った。ストーリー・プロット分析では、サッカーの楽しさを全面に押し出していること、爽やかな「友情」模様が読者の感情移入を煽動することがわかった。

口語表現分析では、「サッカーは～(なスポーツ)」という言い回しが多用されており、作者がサッカーの魅力を伝えようとする意志が明確にみられた。キャラクター分析では、『キャプテン翼』には「主人公集団」とも言うべき、個性的なキャラクターが多数存在し、多様化する読者にも対応できることを指摘した。イラスト分析では、流動的であるサッカーを、野球マンガと同様にシーンを切り取ってドラマ化していること、自由のメタファーとも受け取れる「コマ崩し」が多用されていることがわかった。

【終章】

日本サッカー協会の川淵三郎が言うように、『キャプテン翼』が日本サッカーの隆盛に貢献したことは間違いないと言っていいだろう。人々に受け入れられた要因は、一言で言うと時代感覚を捉えたということにある。そして、その影響は、サッカーの楽しさを表現することで、人々をサッカーに駆り立てたことと言えよう。作者が「現実がマンガを追い越す」と表現するように、マンガの中のサッカー

が現実世界のサッカーに影響を与え、現実世界のサッカーがマンガの中のサッカーに影響を与える、シナジー効果が生まれている。日本サッカー協会は「JFA2005年宣言」の中で、2050年までにFIFAワールドカップでの優勝を果たすと宣言している。『キャプテン翼』で語られた、日本のワールドカップ優勝という夢、「現実がマンガを追い越す」日が来ることを願って止まない。